

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5940m付近の上空の高気圧に対応して、地上の高気圧が日本の南にほとんど停滞。名古屋で14時28分に40.0℃を観測するなど、猛暑日となっている所がある。

② 前線が華中～日本海にのびている。

③ 300hPaで-33℃前後の寒気を伴う上層寒冷低気圧 (UCL) が東シナ海に停滞し、地上は気圧の谷となっている。東シナ海や九州では発雷し、激しい雨や非常に激しい雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の上空の高気圧は、9月2日にかけて日本の東に中心を移し、日本の南の高気圧は、次第に南鳥島近海を西へ移動する高気圧に取り込まれる。西～北日本では2日にかけて、晴れて気温が上昇し猛暑日となり、最高気温が40℃前後まで上昇する所がある。熱中症などの健康管理に注意 (熱中症警戒アラート参照)。日中の昇温や高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。北日本では31日は、西～東日本では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1日朝までに、1項②の前線上の沿海州付近に低気圧が発生して東北東進する。この低気圧は、2日にかけて宗谷海峡付近を通過して千島近海へ進み、1日は温暖前線が北海道地方を北上し、2日は寒冷前線が北日本を南下する。また、2日夜にかけて、500hPa 5820m付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフが日本海中部へ、500hPa 5700m付近で-12℃以下の寒気を伴うトラフが日本海北部へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。北日本では1～2日は、東日本では2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、強風に注意。

③ 1項③のUCLは、1日にかけて東シナ海にほとんど停滞し、2日は台湾付近を南下する。上空の寒気や2項①の高気圧の張り出しの縁を回って2項②の前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。西日本と南西諸島では2日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

④ フィリピンの東にある低圧部が、2日にかけて熱帯低気圧となって日本の南を北上する。

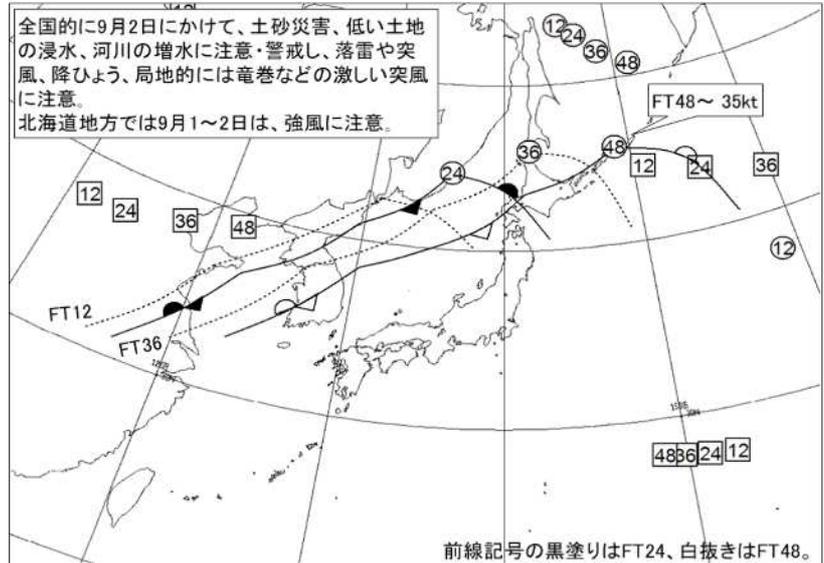
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：九州北部120、関東甲信100mm。

② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図